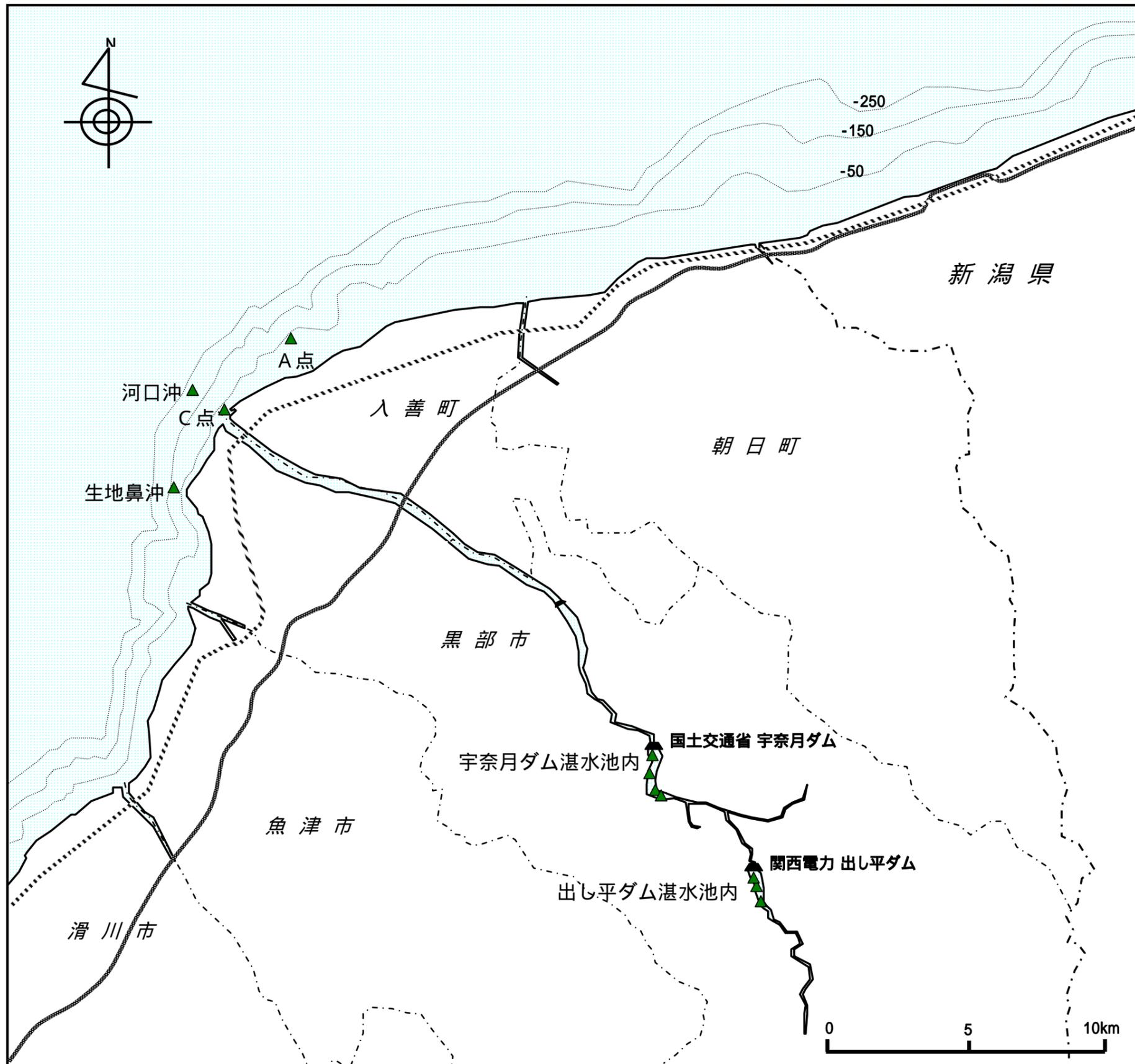


底質調査位置図



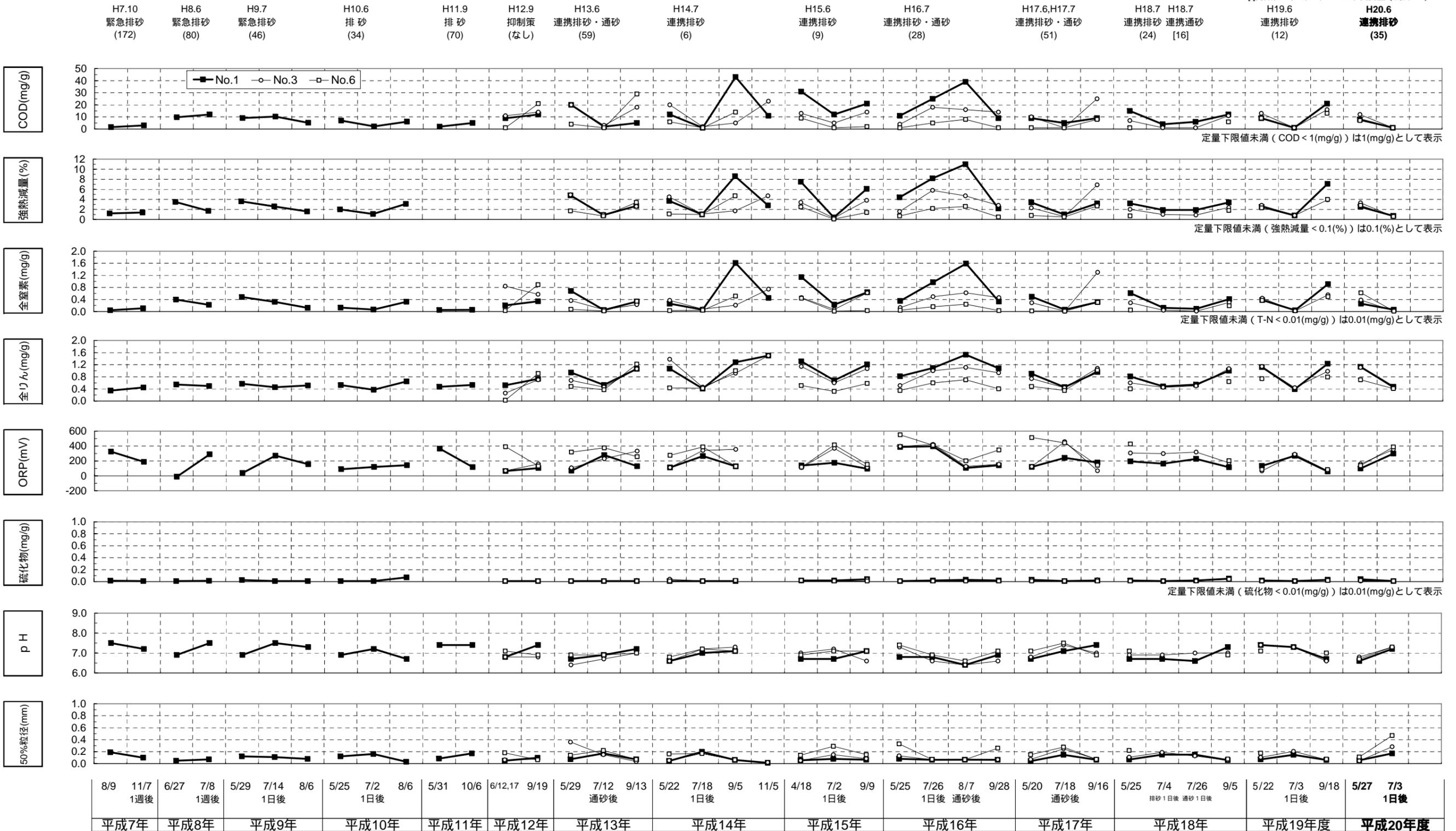
凡 例

- ：底質調査
- (出し平ダム：3地点)
- (宇奈月ダム：4地点)
- (海 域：4地点)

出し平ダム湛水池 底質

各地点とも平成19年までと同様に、5月調査時に比較し排砂1日後にはCOD、強熱減量、全窒素、全りんが減少した。
還元性指標のORPは5月調査時に比較し排砂1日後は酸化傾向を示した。
粒度組成(50%粒径)について、5月調査時に比較し排砂1日後は粗くなった。

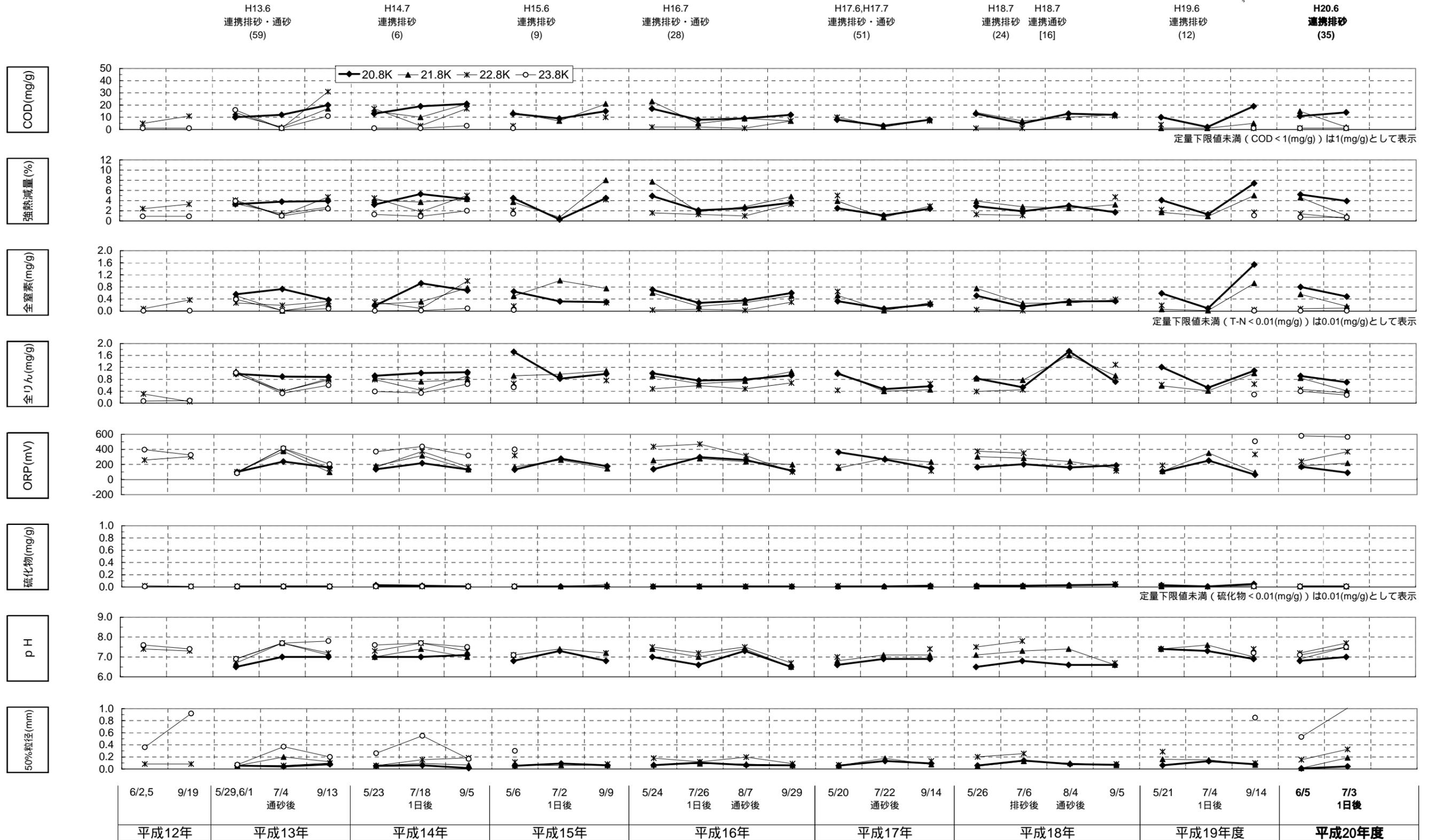
()内数値は、出し平ダム排砂量(約万m³)
[]内数値は、出し平ダム土砂変動量(約万m³)



宇奈月ダム湛水池 底質

20.8K地点では5月調査時に比較し排砂1日後に強熱減量、全窒素及び全りんが減少したが、CODは増加しORPIは還元傾向を示した。20.8K~23.8地点では平成19年までと同様に、5月調査時に比較し排砂1日後にはCOD、強熱減量、全窒素、全りんが減少又は横ばいで推移し、ORPIは概ね酸化傾向を示した。
還元性指標のORPIは5月調査時に比較し排砂1日後は酸化傾向を示した。
粒度組成(50%粒径)について、5月調査時に比較し排砂1日後は粗くなった。

()内数値は、出し平ダム排砂量(約万 m^3)
[]内数値は、出し平ダム土砂変動量(約万 m^3)



海域 底質 (代表4地点)

C点、A点、生地鼻沖地点における排砂1日後調査では、A地点のpH及び生地鼻沖の50%粒径を除き、過去の観測値の範囲内であった。なお、排砂1日後におけるA地点のpH=8.1は過去の観測値の範囲(7.1~7.9)よりやや高く、生地鼻沖の50%粒径=0.063(mm)は過去の観測値の範囲(0.090~2.4(mm))より細かった。また、これらの3地点ではCOD及び硫化物とも水産用水基準における正常泥の範囲(COD 20(mg/g)、硫化物 0.2(mg/g))であった。なお、排砂1日後調査時の河口沖地点は他地点より波高が高かったため採泥できず欠測である。

()内数値は、出し平タム排砂量(約万)
[]内数値は、出し平タム土砂変動量(約万)

